

こんにちはコミュニティ Community



CONTENTS

- 02 令和5年度 総会 ・ 研修会
- 04 コミュニティ活動功労者表彰
- 07 コミュニティ研修会
- 08 栃木県誕生 150 年記念講演会
- 09 いきいきコミュニティライフ！
- 10 書籍紹介
- 11 コミュニティ通信
- 12 お知らせ



栃木県誕生150年
みんなで創る、未来のとちぎ

Vol.
122
September
2023

photo : みかえり 回顧りの滝（那須塩原市）

令和5年度 栃木県コミュニティ協会総会 コミュニティ研修会

2023.5.22 (月)

栃木県総合文化センター 特別会議室



入内澤会長 挨拶



野原栃木県生活文化スポーツ部長 祝辞



総会の様子

5月22日(月)に栃木県総合文化センター特別会議室において、令和5年度栃木県コミュニティ協会総会・コミュニティ研修会を開催しました。総会では、令和4年度の事業報告及び収支決算報告と令和5年度の事業計画・収支予算が原案通り承認されました。

同席上において、コミュニティ活動功労者の表彰も併せて行いました。

この表彰は、多年にわたり住みよい地域社会実現のためにコミュニティづくりを推進し、成果をあげられている団体・個人を讃えるとともに、将来にわたりその活躍が期待される個人・団体に対し活動を奨励するために実施しているものです。

今年度は、知事表彰が1名、コミュニティ協会長表彰が3団体でした。

コミュニティ研修会では、NPO法人里山くらしLABO代表 池田水穂子氏をお招きし、「令和の時代の地域づくり」と題した御講演をいただきました。地域の具体的な事例を交えたお話に、参加者のみなさんは熱心に聞き入っておられました。講演後は参加者から多くの質問等がありました。各団体とも、コロナ禍により中止を余儀なくされた活動を再開され、これからの運営について思案されていると感じました。(講演の概要は7ページをご覧ください。)

◆入内澤会長 挨拶◆

本日は、お忙しい中、総会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

会員の皆様方には、当協会の運営に一方ならぬ御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、只今、表彰を受賞された皆様には、長きにわたり住みよい地域社会の実現のため、活発な活動を続けておられますことに心から敬意を表します。

当協会は、昭和63年に設立以来、コミュニティ活動を通して、地域住民の連帯と協働による活力とるおいのある生活の場づくりを目指して、各種事業の推進を図っているところであり、令和5年5月9日現在で、一般会員136団体、賛助団体11団体、賛助個人会員9名が、各地域において、積極的にコミュニティ活動を展開されております。

さて、私たちを取り巻く環境が、少子高齢化・人口減少の進行、単身世帯の増加、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響などにより大きく変化する中、地域コミュニティは、防災や防犯、環境美化

や高齢者の見守りなど様々な活動を通して地域の支えとなっています。

安全で安心な明るく住みよい地域社会を実現していくためには、住民一人ひとりが地域の一人として「地域づくり」へ積極的に参加する「コミュニティ活動」の取組がますます重要になっていると感じております。

今後とも、皆様の御理解と御協力を得ながら、コミュニティ活動がさらに地域にしっかりと根づき、地域のコミュニティが積極的に円滑に推進されるよう支援に努めて参りたいと考えております。

なお、今年は、栃木県が誕生して150年という節目の年となります。当協会でも、記念講演会の開催を企画したいと考えておりますので、詳細が決まりましたら、改めて御案内申し上げます。

結びに、皆様方の今後益々の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、総会開催に当たつての挨拶とさせていただきます。



◆ 野原栃木県生活文化 スポーツ部長祝辞 ◆

会員の皆様方には、日頃から本県のコミュニティ施策の推進に多大なる御理解と御協力を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。また、先ほど表彰を受賞された皆様、誠におめでとうございました。長年にわたる御功績に対し敬意を表しますとともに、心よりお祝いを申し上げます。

さて、本県でも、人口減少・少子高齢化の進行により、地域におけるコミュニティ活動の担い手が不足し、活動の衰退が懸念されています。一方、気候変動に伴い、自然災害は頻発・激甚化しており、災害時に周囲の人たちと協力して助け合うため、地域住民のつながり、地域コミュニティ活動は、ますます重要性を増しております。

そのような中、県では昨年度から、「NPOを活用した地域コミュニティ助け合い機能強化事業」として、地域貢献活動に興味があるものの、きっかけがつかめずに参加できていない住民に身近な活動に参加していただけるよう、NPOの専門知識・課題解決能力を生かして地域コミュニティを支援する事業に取り組んでおります。

今後も各団体の皆様と一層の連携を図りながら、地域コミュニティの活性化に取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続き御理解、御協力を賜りますようお願いいたします。

また、今年は栃木県誕生150年という大きな節目の年であります。これを機に、県民の郷土愛の醸成・本県の魅力の発信、若者の活躍促進を図るため、年間を通して記念事業等を展開して参りますので、併せて御協力くださいますようお願い申し上げます。

結びに栃木県コミュニティ協会の益々の発展と本日御参加の皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。



◆令和5年度 コミュニティ活動功労者表彰◆

知事表彰受賞おめでとうございます！

君島 守 氏(那須塩原市) 関谷下田野地区コミュニティづくり推進協議会

平成8年4月から書記及び事務局長等役員として、関谷下田野地区コミュニティづくり推進協議会の活動に貢献。平成25年4月会長に就任し、現在に至る。

長年にわたり役員として会の活動に携わり、地域コミュニティの振興に貢献し、地域理解事業として歴史散歩、安全対策事業として放射能対策事業や自主事業などに取り組んでいる。

特に、平成26年度から自主防災連絡会(コミュニティの傘下組織)などとの合同防災訓練を、平成29年度からはコミュニティまつりと防災訓練を同日に開催するなど地域住民が参加しやすい企画を実施することで地域住民の防災意識の向上に努めた。

また、関谷城鉾舞、関谷囃子、流響塩原太鼓など伝統芸能の継承活動に指導者として尽力し、伝統芸能を生かした地域づくりに取り組んでいる。



君島 守氏



今回、コミュニティ通信 11 ページで団体紹介をしていただいています。



～ 受賞に寄せて～

関谷下田野地区コミュニティづくり推進協議 会長 君島 守

この度知事表彰をいただきました。大変ありがとうございます。仲間とともに地域づくりに取り組んできたこと認めていただき嬉しく感謝申し上げます。これからも地域の人たちがこの地区は住んでいい地区だと思えるよう活動をしてまいりたいと思います。



関谷城鉾舞



加蘇地区コミュニティ推進協議会(鹿沼市) 会長表彰受賞おめでとうございます！

鹿沼市 平成14年4月26日設立。

耕作放棄地に体験農園や公園からなる「カソトモの森」を整備し、地域住民の憩いの場となるとともに、体験イベント等の開催により、地元高校生や都市との交流を図っている。地区内の危険箇所を確認し、加蘇地区防災マップを作成し、全戸配布するとともに、防災研修によりマップをもとに危険箇所の把握や支援が必要な高齢者世帯などの情報共有を図っている。

また、地域イベントや情報発信により、都市交流を行うことで、地区内への移住の促進や関係人口の増加、担い手の確保を目指している。

～受賞に寄せて～

加蘇地区コミュニティ推進協議会
会長 小林 俊明

鹿沼市加蘇地区は、中山間地域特有の魅力や課題がありますが、今後とも、地区内の魅力を皆様に知っていただけるよう、また地区内の課題を少しでも解決できるよう、活動に取り組んでまいりたいと考えております。

表彰していただきありがとうございました。



小林 俊明氏

東原地区コミュニティ（那須塩原市） 会長表彰受賞おめでとうございます！

昭和46年4月1日設立。生涯学習の各種講座（ひがしはら学級）の開催、会員主体の自主的活動（ふれあい活動）への補助、コミュニティ運動会の開催、東原地域活動センターの清掃、あいさつ運動の推進など文化や体育、福祉などの活動を通じて、住民相互の連帯と生活文化の向上を図り、住みよい地域づくりに寄与している。

また、地域学校協働本部事業として学校と連携することで、地域全体で子どもを育て、また、大人も学ぶことで地域活性化に貢献している。



君島 勝氏

～受賞に寄せて～

東原地区コミュニティ 会長 君島 勝氏
この度の栃木県コミュニティ協会会長表彰受賞に対し、コミュニティ役員一同衷心より感謝申し上げます。当コミュニティは、昭和46年設立の自治公民館を前身とする小さな団体ですが、多くの皆様のご支援により活動が続けてきました。今後とも協力宜しくお願い申し上げます。



朗読ボランティアみすず会 （高根沢町） 会長表彰受賞おめでとうございます！

平成9年11月1日設立。

毎月発行の高根沢町広報誌「広報たかねざわ」と年2回発行の高根沢町社会福祉協議会広報誌「社協だより」をカセットテープに録音し、視覚障害者など文字による情報収集が困難な方や町内福祉施設に声の情報を届けている。地域や自治体のパイプ役として地域に住む視覚障害者の「目のかわり」となり、町の必要な情報を声で伝えることで、誰もが安心して生活を送ることができる地域づくりに貢献している。また、永年の活動を通じて地域住民の障がい者への理解促進やボランティアの育成に大きく寄与している。



野中 千秋氏 飯泉八重子氏

～受賞に寄せて～

朗読ボランティアみすず会

この度は、思いがけなく令和5年度栃木県コミュニティ協会会長表彰ありがとうございました。このように高根沢みすず会が、長年続けてこられましたのも日頃よりご支援くださる高根沢社会福祉協議会と、皆様のおかげです。今後とも一層の努力をいたしますので、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。



◆ 地域コミュニティ再生促進事業のご案内 ◆

当協会では、地域における多様なニーズや課題に対応する住民主体のコミュニティ活動を支援するため、地域活動推進組織・団体への助成を行っております。



助成対象となる活動の名称及び内容は、次に掲げるもののうち、新規事業(3年以内)もしくは既存事業のうち時宜を得た工夫を加えた事業(既存事業に時宜を得た工夫を加えてから3年以内)又は復活させた事業(3年以上休止していた事業を復活させてから3年以内)とする。

- (1) 安全確保(交通安全・防犯・防災・消防・救急等) (2) 地域福祉(ボランティア活動・高齢者見守り等)
- (3) 青少年健全育成(非行防止等) (4) 情報提供(広報誌発行・ホームページ開設、SNSによる情報提供等)
- (5) 教育関係機関等との連携(学校・PTA・児童館・保育所・幼稚園・公民館等) (6) 環境保全(環境美化・緑化推進等)
- (7) 組織の基盤強化(先進事例視察、勉強会等)

詳しくは協会 ホームページ(助成金情報)をご覧ください。 <https://tochigi-community.jimdo.com/>



本誌は自然環境活動団体の情報支援を通じて、将来世代に美しい環境を引き継ぐ持続可能な社会の実現への寄与を目指して、小・中学校、図書館等に無償配布しており皆様の購入支援を頂きさらなる配布を行いたいと考えています。
1冊 600円、2冊より1冊あたり500円(送料込)以上を目安にお振込みください。

郵便振替口座 00110-9-265575
NPO 法人とちぎ協働デザインリーグ
通信欄に、住所・氏名・電話番号・冊数をご記入ください。恐縮ですが、振込手数料のご負担をお願い致します。

令和5年度 栃木県コミュニティ協会 研修会

テーマ「令和の時代の地域づくり」



講師： 池田 水穂子氏

里山くらし LABO 代表・静岡市集落支援員・はびまましずおか

令和5年度 コミュニティ研修会は「令和の時代の地域づくり」をテーマに池田氏にご講演いただきました。里山くらし LABO では自治会長の人材育成や外国人のためのガイドブックを作成しています。

講師プロフィール

平成27年 静岡市に里山くらし LABO を設立し、中山間地域の課題解決の伴走支援を始める。

静岡市内の自治会等の地縁組織が抱える課題を第三者視点で支援。課題の見える化、数値化、住民参加を基本に、空き屋の活用や自治会行事の見直し、住民アンケート、特産品補助事業の継承などを実施した活動が評価され、平成30年に地方新聞46社と共同通信社による第8回地域再生大賞特別賞を受賞。静岡市市民活動推進協議会委員。

講演概要

どこでも似た状況にあるが、人口減少等に伴い行政はお金がなくなっていく。65歳以上で働く方や共働き世帯の増加により地域は担い手が減少し、家族で支えあうことが難しくなった。世帯あたりの人口は減少傾向にある。アンケート結果で出た、静岡市自治会の3大課題は→「担い手不足」、「活動の負担」、「住民の不参加」だった。この3つは密接に関係している。少しずつでも上向きにしていかないと地域活動は難しい。

【令和の時代の地域活動とは？】 1 → 2 → 3 → 4

大前提として地域はすべて同じではない。地域の規模や人口推移・人口構築などそれぞれの地域で広さ・転入率なども違うので、よく似ている地域の事例を参考にはできるが、決して同じようにはいかない。各地域で考えて実行することが大切。

1.現状把握

うわさや憶測ではない、事実に基づき、効率よく効果的な活動をするために現状を把握することが大事。事例) 行事・会議・組織の人数・役員数など表を作成するなど活動を見える化して見直す。

2.変化への対応

華やかな話や万能解はなく、地味で時間がかかることが多い。何のための活動なのか、何のための組織なのかで目的を再確認する。

3.多様な住民の参画・参加

若い世代に任せること。新しいことこそ若い世代の参画は有効。事例) IT 委員会を設置して(ホームページ作成、LINE 教室や LINE 防災訓練(安否確認)の実施、LINE での定例会など)デジタル化を若手に任せる。



4.共有・周知・巻き込み

相手に伝わるように共有することが大事(共有手段を選び、若い世代にはデジタルを活用する。効果的に伝える工夫をするなど)例)若い世代ほど回覧板は見ない傾向なので40代以下の情報伝達手段は回覧板よりLINEが効果的。速報性を活かし情報を発信する。自治会公式LINEで情報発信。(防災、防犯、発災時に有効)

変えていくためには!とりあえずやってみる → 結果を検証する →

必要なら地域の合意形成。組織ではなく機能を残すなど対応していくことが大切。

＼＼地域を変えるの事ができるのはそこに住む人／／

地域づくりに若者が参加するには？

栃木県誕生 150 年を記念し、8 月 3 日とちぎボランティア NPO センター（ぽ・ぽ・ら）にて、記念講演会を開催いたしました。

講師には、NPO 法人おりがみ 理事長 都築 則彦氏をお迎えし、御自身の生い立ちや活動事例を含め、現在の活動に至る経緯などをお話いただきました。

講師プロフィール

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた日本最大の学生団体「おりがみ」を設立。400 名以上の学生メンバーと共に、聖火リレー期間に炎を成層圏で点灯・映像配信する「Earth Light Project」をはじめとした数々のプログラムをプロデュース。

その後、日本のボランティア文化に問題意識を持ち、NPO 法人を設立。現在は千葉大学大学院博士後期課程でボランティアの構造研究に取り組み、実践面では高校生・大学生のコミュニティづくり、全国のボランティア団体のネットワーキングなどに従事。

団体名
ORIGAMI は
オリンピック・
パラリンピック
の「おり」・学生
の「が」・みんな
での「み」から
なる。

講演概要：若者と接する際の心得

活動と風土のメタファー

- ★ 種＝活動（花） 活動の種をまき、利益が出る立派な花に育てる
 - ★ 土＝コミュニティ（組織）種がしっかりと育つような土壌を耕す
- 活動という種は、コミュニティという土で育まれる



ポイント① 若者は、土(コミュニティ)を耕す主体として位置付けられているか？

若者を主体として認め、若者の可能性をどこまでも信じ、🔗教育しない。

ポイント② 若者に合った土の特徴を考えきれているか？

若者を迎え入れるのではなく、自分達（地域）が🔗若者の輪の中に入れてもらう姿勢でいると、若者に主体性がでる。深入りしない。

ポイント③ 若者と“個人”で対話できる環境はあるか？

若者は自分のアイデンティティを向き合っている時期。🔗高校生・大学生の括りで見るとではなく
〇〇くん、〇〇ちゃんとして個人を見る。



都築氏が NHK for school で道徳教材に。「SEED なやみのタネ 都築」で検索





連載 いきいきコミュニティライフ！ ⑧

文 / 安藤 正知

「世代を超えて」

これまで当コラムをお借りして、自治会運営の課題について触れてきました。たとえば、①住民ニーズ把握のためのアンケート実施、②情報共有のためのデジタル化推進、③自治会の活動にあまり関わって来なかった人たちとの意見交換、などです。これらの課題解決に向けて、県内でもさまざまな取り組みが進められていますが、今回は、③に関して、昨年ご紹介した社会教育主事講習での自治会役員との意見交換の様子をご紹介します。

今年は、私自身が話題提供者として参加する機会を得て、受講者にぜひお聞きしたいと思っていた「自治会の印象をお聞かせください」という問いを投げかけてみました。すると、複数の方から「子どもの頃に参加した自治会のイベントが楽しかった」「自分の子どもにも同じ体験をして欲しいと思う」との答えが返ってきました。私の自治会でも、コロナ禍を経て久しぶりに復活したイベントにはたくさんの子どもたちが参加していましたが、親御さんの中には、参加者と同じ思いの方もいらっしゃったことでしょう。

前回の研修会である役員が「小中学校時代の思い出が地域に関わる上で重要」とおっしゃってたのを思い出しました。楽しい体験は、当人だけでなく次の世代へ引き継ぐ上でも大切なのですね。

一方で、思い出を作ってあげたいが・・・

「アパート住まいだと、どの自治会に所属しているのかもわからないし、入会を誘われたこともない。」「アパートは自治会の対象外？」これも複数の受講生から出された意見です。私自身には耳の痛い指摘でした。

宇都宮市内では、企業や子育て世代との意見交換会を始めた事例もあり、地域住民に求められる自治会とは何か、を模索する動きが進んでいるのは心強いことです。やみくもに加入促進を訴えるのではなく、住民が求める活動を積み重ねることで、加入したいと思える組織、そして、若い方々の気持ちをしっかり受け止められる組織でありたいとの思いを強くしました。

安藤正知（あんど まさと）

認定 NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房 理事長

秋田市出身。化学品会社に 16 年勤務後退職し、2003 年より宇都宮市民活動サポートセンター勤務、2005 年 NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房設立に関わり、2019 年理事長就任、市民主体のまちづくりを目指して調査研究、まちづくりの実践を行っている。2012 年 1 月宇都宮市が開設した宇都宮市まちづくりセンターの指定管理者としてその管理運営に携わる。



つつちー おすすめ！



◆書籍紹介◆



『銭湯から広げるまちづくり』 小杉湯に学ぶ、場と人とのつながり方』

加藤 優一、学芸出版社 発行

「銭湯」と聞いて、どんな風景を思い浮かべるでしょうか。どこかノスタルジーを感じさせる、古き良き時代のワンシーンなのかもしれません。本書の舞台は、東京都世田谷区にある老舗銭湯「小杉湯」と、常連客がつくったシェアスペース「小杉湯となり」。常連客10人による「銭湯ぐらし」と称した生活実験の様子やシェアスペースの事業化プロセス、銭湯を起点にしたエリアリノベーションなどについて、詳細に語られています。

銭湯では、会話をしなくても人とのつながりを感じられる、「サイレントコミュニケーション」と呼ばれる現象が生じていると筆者は指摘しています。そのうえで、他者との関わり方を選べる場所の必要性を解説しています。自分の暮らしを必要に応じて閉じたり開いたりできることが、居心地のよさにつながるのかもしれません。

また、シェアスペースには、大きな計画を先行させるのではなく、個人が実現したいことを持ち寄り、一人ひとりが挑戦したい事業の集合体で全体をつくるという発想があるといえます。ここでは、梅干しづくりや写真展、子ども工作教室など様々なイベントをとおして、さまざまな「広がり」が創出されています。

本書のまとめとして、現代社会を生きる私たちは、村社会的な近すぎる関係性でもなければ、都会的な遠すぎる関係性でもない、ほどよい距離のコミュニケーション、すなわち「適度なつながり」を求めているのではないかと筆者は指摘しています。心がホッと温まりつつ、自分の身近なところではどんなことができるのか、思わず考えてみたくなる一冊でした。

土崎 雄祐（つちざき ゆうすけ）秋田県生まれ。これまでに NPO 職員や大学教員として学生向け地域志向科目や市民向け講座のプログラム開発、自治体職員研修の企画立案支援などに従事。（一社）とちぎ市民協働研究会専務理事、認定 NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房常務理事。公職として、那須塩原市男女共同参画審議会会長など。

私たちもコミュニティづくりに協力しています

『できる親切はみんなでしょう それが社会の習慣となるように』

「小さな親切」運動栃木県本部

代 表：黒本 淳之介
事務局：栃木銀行 経営企画部広報文化室
住 所：宇都宮市西2丁目1番18号
TEL：028-633-1241（代）





郷土芸能・伝統行事を生かした街づくり

那須塩原市 関谷下田野地区コミュニティづくり協議会 会長 君島 守

当コミュニティ地区の位置は、塩原温泉の入り口にある山の麓の宿場町「関谷宿」の地域です。

当会は那須塩原市では一番古く昭和 52 年に発足し今年で 46 年目になります。私は平成 25 年度から会長をしております。当会の特徴は事務所が公立公民館でなく、会長宅であり役員が直接運営していることです。会費は自治会費の中から収めていただいております 1 戸 300 円です。他に自治会から 18 万円の補助金と市からの補助金をいただいております。防災訓練をする場合は市から別途補助金があります。

地区内会員戸数は最近では転入しても自治会に加入しない世帯や住んでいても退会してしまう世帯もあります。コミュニティの会員も連動して減少となっています。地区内会員戸数は今年度は 510 戸です。地区内に 7 つの自治会があり役員は自治会長や育成会長・老人会長・各種団体長等で構成しています。

事業としてはコミュニティ祭・防災訓練・地域の歴史文化を詠んだ「塩原かるた」を利用した子供会対抗の「かるた大会」、この大会前に参加予定のご家庭は何日も親子兄弟や育成会で練習をします。子供たちは文字札の始めの一行だけで絵札をとれるくらいになります。大人になってからも読み札を覚えていきます。かるたをとおり地域の歴史文化について理解を深められます。地域の月見の行事の「ボウジボ」作り教室・小正月の鳥追いの「刀作り教室」・老人会のグラウンドゴルフ大会・又伝統芸能の「関谷城鉾舞・県指定無形民俗文化財です。」や「関谷囃子」の伝承活動の支援を行っています。城鉾舞はコロナで活動を休止していましたが今年は 4 年ぶりに春祭に奉納再会ができました。今年から「関谷宿歴史散歩」もとりました。これは 100 年前に西那須野から関谷まで走っていた「塩原軌道」という鉄道廃線跡や大正天皇が塩原への行き帰りに当時あった関谷小学校跡地に立ち寄ったことを記念した碑等を見てまわります。石碑の題字は山縣有朋が書いています。

地域の特徴は昔からの集落に住んでいる人と、区画整理地内の新しい転入者が混住していることです。昔からの人は絆が強いのですが、地区全体ではお互いに知らない人もたくさんいるようになりました。転入者は地域のことをよくわかりません。このため地域を理解し交流できるような取り組みをしています。

人口減の理由に少子化と学卒者の都市転出の傾向もあります。これは従来の組織の維持存続にかかわることです。郷土芸能の伝承・消防団員の確保等です。伝統行事・郷土芸能は時代が変わっても変わりません。これらを継承することにより、地域に誇りをもってもらうよう地域づくりに役立てたいと思います。今年、地域の学校は 1 つの中学校と 3 つの小学校が統廃合となり、箒根学園という小中一貫校となりました。小中生が地域行事に参加できる事業にも取り組んでいきたいと思っています。





バランス



▼ 新 規 会 員 募 集 ▼

当協会では、住みよい地域社会の実現のために、地域づくりに必要なリーダーの養成をはじめとする各種事業を行っています。

今後さらに事業の充実をはかるためには、協会の活動に賛同される企業、団体の御協力が必要です。協会の趣旨に御理解いただき、御加入をお願いいたします。

一般会員（3,000円）・賛助会員（10,000円）・個人賛助会員（2,000円）を随時募集しておりますので、お問合せ等ございましたら事務局まで御連絡ください。

▼ 会員代表者等の変更について ▼

代表者、または住所等の変更がありましたら、事務局あてに随時御連絡ください。（メールFAX可）

▼ 助言者・講師派遣事業のご案内 ▼

栃木県コミュニティ協会では、当協会会員及び市町等が主催するコミュニティに関する講演会等に対して、講師・助言者を派遣しています。地域コミュニティづくりの推進と活動の活性化を図るためにも、ぜひ御活用ください。講師・助言者の謝金・旅費は、協会が負担します。

※申請書様式は栃木県コミュニティ協会ホームページからダウンロードできます。

平子めぐみさんには「コミュニティ活動」に参加するメリットや楽しさなどを描いた4コマ漫画「コミュニティ日和」を2019年から連載していただいておりますが、今回をもって連載終了となります。

今まで、ありがとうございました。これからの平子さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます！



発行：栃木県コミュニティ協会

〒320-8501

栃木県宇都宮市埴田 1-1-20

栃木県県民協働推進課内

TEL 028-623-2110/FAX 028-623-2121

